

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比

・中国で上方修正も、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。依然として、史上最高の見込み。

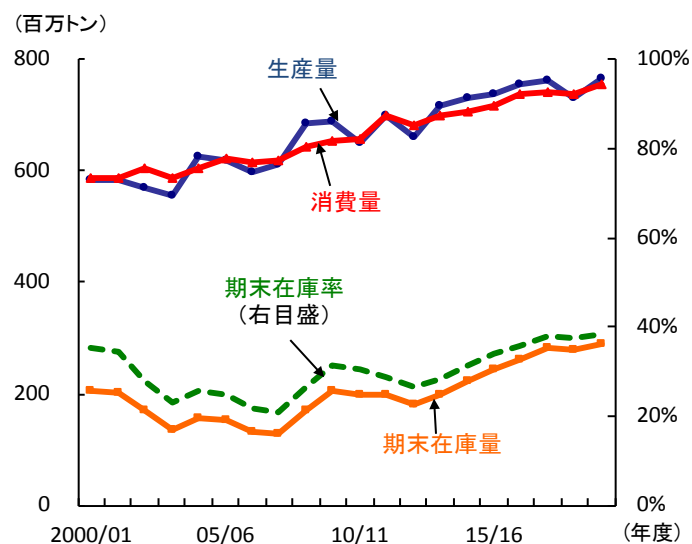
消費量 前年度比 前月比

・カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。依然として、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・米国等で上方修正も、アルゼンチン、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2019.12.10）をもとに農林水産省にて作成

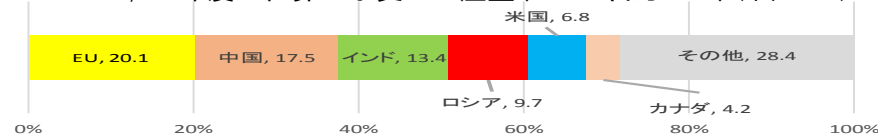
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

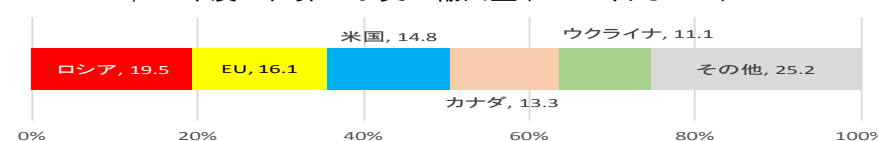
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	762.9	731.4	765.4	▲ 0.1	4.7
消費量	742.5	736.6	753.8	▲ 1.4	2.3
うち飼料用	146.4	139.4	148.7	0.2	6.7
輸出量	182.5	173.2	179.8	▲ 0.9	3.8
輸入量	180.0	169.9	177.6	1.0	4.5
期末在庫量	283.1	277.9	289.5	1.2	4.2
期末在庫率	38.1%	37.7%	38.4%	0.2	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2019)

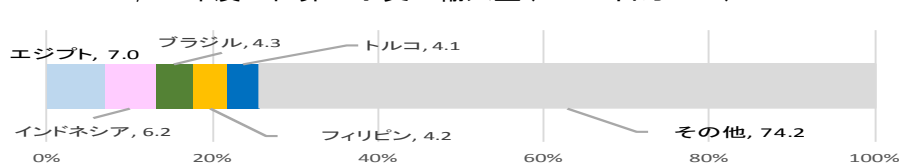
○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量 (765.4 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量 (179.8 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量 (177.6 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、冬小麦 35.5 百万トン(対前年度比 10.1%増)、春小麦 15.3 百万トン(同 9.8%減)、デュラム小麦 1.5 百万トン(同 31.1%減)の 52.3 百万トンの見込み。

また、2020/21年度の冬小麦は、休眠期に向かっているが、カンザス州等では乾燥天候が定着しており生長を妨げている。USDA「Crop Progress」(2019.11.25)によれば、11月24日現在、発芽進捗率が87%と前年度同期85%を上回っているものの、5年平均90%を下回っている。現在、作柄評価は、良～やや良が52ポイントと前週と変わらないものの、前年の55ポイントを下回っている。

【貿易情報・その他】2020/21年度に用いる2019/20年度の種子用需要量は、前月予測からの変更はなく、前年度(2018/19年度)の1.6百万トンから3.4%増加し1.7百万トンの見込み。

輸出量は、豪州、カナダ等の減産で価格競争力が回復したため、前月予測から0.7百万トン上方修正され、26.5百万トンの見込み。

なお、11月の輸出検証高(注)は2.1百万トンで、その内訳は、フィリピン、メキシコ、日本、イタリア、中国の順、また、2019年の累計輸出検証高は29.4百万トンで、メキシコ(3.1百万トン、シェア10.5%)、フィリピン(2.8百万トン、9.7%)、日本(2.4百万トン、8.2%)、韓国(1.2百万トン、4.0%)、インドネシア(3.9百万トン、3.9%)の順。

11月の米国の品種別輸出価格は、平原南部での2020/21年度冬小麦の作付け時の乾燥天候や、ソフトレッドウインター(SRW)の供給不足、主要輸出国の生産減予測から、ハードレッドウインター(HRW)は8ドルトン、SRWは19ドルトン上昇して、それぞれ223ドルトン、245ドルトンとなった。一方、太平洋岸北西部(PNW)の水路の定期修繕による滞船の解消により、ソフトホワイト(SWW)は3ドルトン、ハードレッドスプリング(HRS)5ドルトン低下して、それぞれ、228ドルトン264ドルトンとなった。なお、HRSは、低下傾向にあるものの、他の品種との価格差があり、高価格水準が継続している。

(注)11月の輸出検証高は11月7、14、21、28、12月5日の合計、累計検証高は2019年1月3日～12月5日の合計

小麦—米国

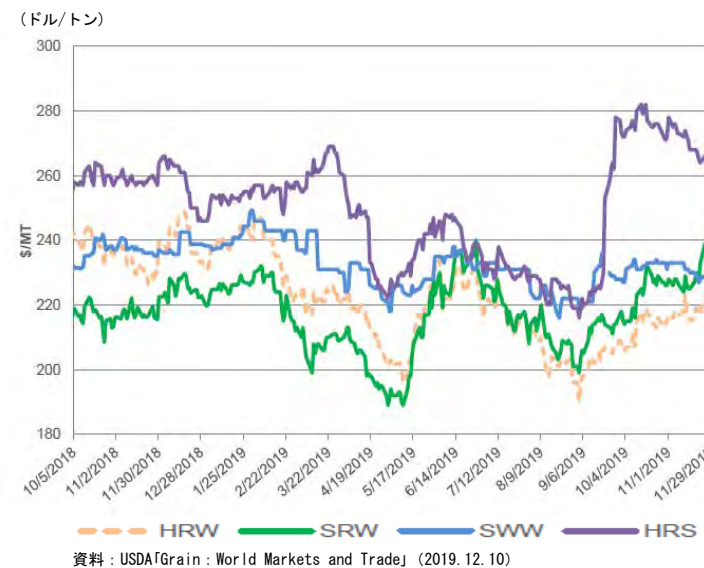
(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	52.3	-	1.9
消費量	29.3	30.0	31.5	-	4.8
うち飼料用	1.3	2.4	3.8	-	56.1
輸 出 量	24.7	25.5	26.5	0.7	4.2
輸 入 量	4.3	3.7	2.9	▲ 0.4	▲ 22.1
期末在庫量	29.9	29.4	26.5	▲ 1.1	▲ 9.8
期末在庫率	55.5%	53.0%	45.7%	▲ 2.4	▲ 7.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.20	16.03	15.04	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	3.12	3.20	3.47	-	8.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)

図 米国産小麦の品種別輸出価格の推移



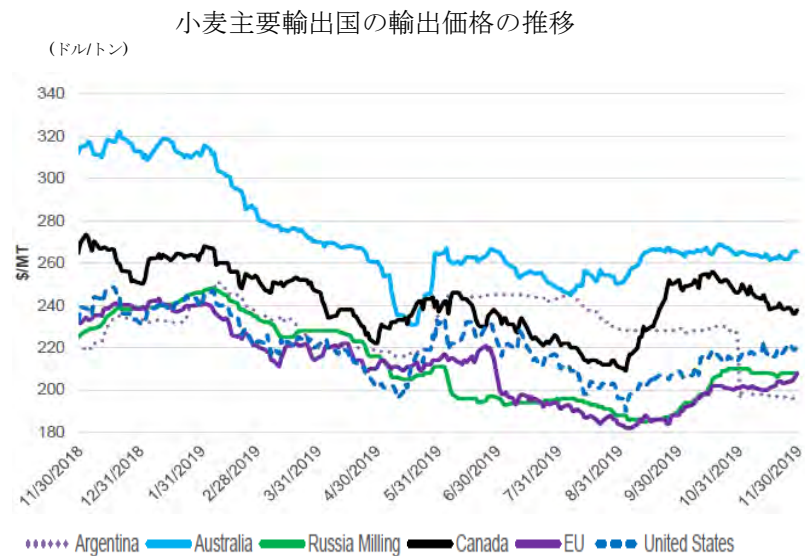
< カナダ >

【生育・生産状況】主要産地の平原三州では、9月下旬以降の断続的な大雨や積雪の寒冷湿潤型の天候により、収穫が遅れている。そのため、一部が未収穫となっていると見られ、品質の劣化が懸念されている。

カナダ農務農産食品省(AAFC)の12月報告(2019.12.19)によれば、生産量は、前月予測から0.2百万トン下方修正され32.3百万トン。なお、この報告は、カナダ統計局の11月調査報告(2019.12.6)をもとにしており、内訳はデュラム小麦が5.0百万トン、普通小麦が27.4百万トンの見込みとなっている。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は、普通小麦が18.8百万トン、デュラム小麦が4.8百万トンの合計23.6百万トンの見込み。世界的な小麦の増産による輸出競争の激化から輸出量は前年度より減少する見通し。

輸出価格は、収穫の進展により一時低下したものの、収穫の遅延の影響で高止まりしている。



資料：USDA「Grain : World Markets and Trade」(2019.12.10)

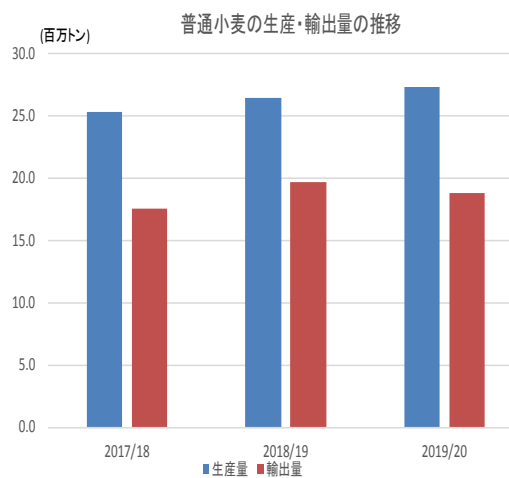
小麦－カナダ

(春小麦を主に栽培)

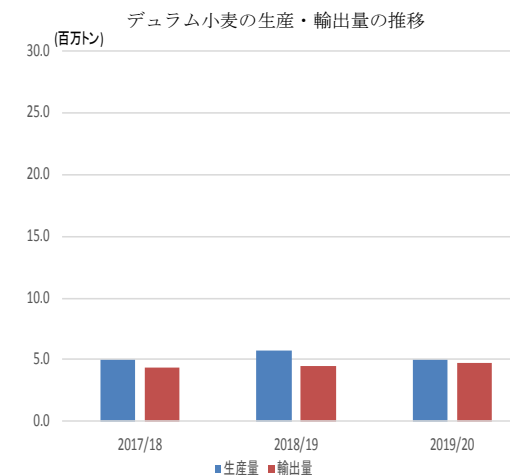
(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.4	32.2	32.4 (32.3)	▲ 0.6	0.5
消費量	9.3	8.9	9.4 (8.9)	▲ 0.2	5.5
うち飼料用	4.2	3.6	4.4 (4.4)	▲ 0.2	22.2
輸出量	22.0	24.4	24.0 (23.6)	▲ 0.5	▲ 1.6
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	▲ 6.2
期末在庫量	6.5	5.9	5.4 (5.9)	-	▲ 9.3
期末在庫率	20.7%	17.8%	16.1% (18.0%)	0.3	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	9.88	9.66 (9.61)	▲ 0.04	▲ 2.2
単収(t/ha)	3.38	3.26	3.35 (3.36)	▲ 0.05	2.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 December 2019)



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2019.12.19)をもとに農林水産省で作成。



< 中国 >

【生育・生産状況】2019/20年度の小麦の収穫は終了した。中国国家統計局の2019年「全国糧食生産数」(2019.12.6)によれば、生産量予測は、冬小麦・春小麦合計で133.6百万トンの見込み。華北平原の地下水利用地域の一部で作付けを制限したため、収穫面積は減少も、天候に恵まれ単収が前年度を上回ったことが要因。

中国中央气象台によれば、2020/21年度の冬小麦の作付けは終了し、12月上旬現在、河北省、河南省、山東省等で分けつ期、甘粛省では休眠期に入っている。

また、全国の冬小麦の一、二類(※)の比率はそれぞれ21%、79%となっている。

【貿易情報・その他】中国海関統計によれば、2019年1月から10月までの小麦の輸入量は、231.2万トンとなっており、内訳はカナダが150.3万トン、カザフスタン34.0万トン、フランス24.8万トン等。

< EU >

【生育・生産状況】

USDAによれば、2019/20年度の生産量予測は、前月予測より0.5百万トン上方修正され、153.5百万トンの見込み。一方、EU委員会によれば、2019/20年度の生産量予測は、スペインで上方修正も、フランスで下方修正されたことから、前月より0.2百万トン下方修正され154.6百万トンの見込み。

同委員会によれば、2020/21年度の冬小麦は、長期に渡る降雨と高温により作付けが遅れたことから、作付面積の減少や耐寒性の低下による冬枯れが生じる可能性がある。

10月初旬から11月中旬にかけて、中欧、東欧、欧州南東部では気温が高かったため、ハーディング(耐凍性、耐雪性の増大)が、例年に比べかなり遅く12月中旬に開始した。

英国では降雨で作付けが遅れ、生産量が減少する可能性が高いと見られている。また、フランスでも作付けが遅れ、12月上旬の分けつの進捗率は14%(前年同日24%)と遅れている。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	134.3	131.4	133.6 (132.0)	1.6	1.6	
消費量	121.0	125.0	128.0 (128.7)	-	2.4	
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (20.8)	-	5.0	
輸 出 量	1.0	1.0	1.1 (1.2)	▲ 0.2	8.9	
輸 入 量	3.9	3.2	3.2 (3.6)	-	1.6	
期末在庫量	131.2	139.8	147.5 (127.1)	1.8	5.5	
期末在庫率	107.5%	110.9%	114.2% (97.9%)	1.6	3.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	23.73 (24.00)	▲ 0.37	▲ 2.2	
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.63 (5.50)	0.15	3.9	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
IGC 「Grain Market Report」(22 November 2019)

※ 一類苗: 生育が正常な苗 二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗
三類苗: 病気の苗、弱い苗

小麦—EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	151.1	136.9	153.5 (154.6)	0.5	12.2	
消費量	130.4	123.2	127.5 (127.6)	-	3.5	
うち飼料用	58.0	52.0	56.0 (53.4)	-	7.7	
輸 出 量	23.4	23.3	29.0 (26.9)	-	24.4	
輸 入 量	5.8	5.8	5.5 (5.4)	-	▲ 4.5	
期末在庫量	13.9	10.0	12.5 (19.7)	0.5	25.0	
期末在庫率	9.0%	6.8%	8.0% (12.8%)	0.3	1.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	26.16	25.58	26.08 (26.19)	-	2.0	
単収(t/ha)	5.78	5.35	5.89 (5.9)	0.02	10.1	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(8 November 2019)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(28 November 2019)

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の収穫は終了。生育期を通して天候がおおむね良好であったため、同年度の生産予測は、前月予測から0.5百万トン上方修正され74.5百万トンと前年度を3.9%上回る見込み。前月予測からの変更は、冬枯れ率が予想を下回ったこと等により冬小麦の単収が上昇したことによる。生産量の内訳は、冬小麦が55.5百万トン、春小麦が19.0百万トン。なお、冬小麦は小麦全体の収穫面積の56%を占め、生産量は74%を占めている。

なお、ロシア農業省によれば、12月6日現在、小麦の収穫進捗率は98.1%に達し、同日までの収穫量は77.9百万トン(前年同日は73.4百万トン)、収穫面積は27.5百万ヘクタール(同26.4百万ヘクタール)、単収は、2.82トン/ヘクタール(同2.79トン/ヘクタール)となった。

ロシア穀物品質評価センターによれば、12月初めまでの収穫分については前年同日より全体的に品質が良く、3等小麦の割合は32.9%(前年同日23.0%)と2008年度以来の高水準である。

11月時点の2020/21年度の冬小麦は、北西、中央、南、北カフカス各連邦管区等のロシア・ヨーロッパ部では、子葉形成期から分けつ期を迎え、生長を停止した。南連邦管区等の南部の一部地域では、土壌水分不足により遅まきの出芽が不揃いになる等の影響がでたが、概ね良好な作柄である。また、ウラル連邦管区、シベリア連邦管区西部等のロシア・アジア部では、10月末には生長を停止した。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、生産量の増加とそれに伴う輸出余力の増加から、前月予測より0.5百万トン上方修正され史上第3位の35.0百万トンとなる見込み。ロシア産小麦は価格競争力があり、2019/20年度を通じて米国産に比べ安価であるが見込まれている。2018/19年度はロシア産の輸出が前半に偏ったため、後半は米国が輸出機会を得たが、2019/20年度は、黒海諸国からの輸出は、1年を通じて一定水準で持続すると見られている。

小麦ーロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

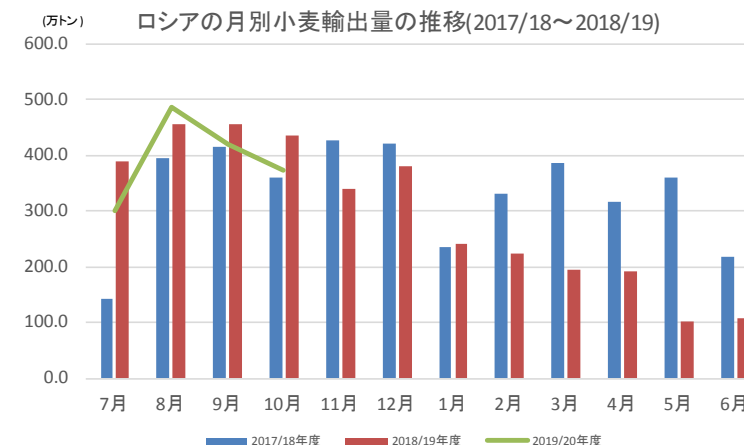
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	85.2	71.7	74.5 (74.5)	0.5	3.9
消費量	43.0	40.5	39.5 (40.6)	-	▲2.5
うち飼料用	20.0	18.0	17.0 (17.4)	-	▲5.6
輸出量	41.4	35.8	35.0 (34.2)	0.5	▲2.3
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.7
期末在庫量	12.0	7.8	8.3 (10.0)	-	6.0
期末在庫率	14.2%	10.2%	11.1% (13.4%)	▲0.1	0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.37	26.34	27.20 (27.30)	-	3.3
単収(t/ha)	3.11	2.72	2.74 (2.73)	0.02	0.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)

IGC 「Grain Market Report」(22 November 2019)



資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、現在、乾燥天候の中で、WA州(注)やSA州での収穫が進展している。

2019/20年度の生産量は、前月予測から1.1百万トン下方修正され、干ばつの影響のあった前年度(17.3百万トン)を下回る、2007/08年度以来12年ぶりの低水準の16.1百万トンの見込み。前月予測より収穫面積は0.5百万ヘクタール下方修正、単収は開花期から登熟期にかけて降雨量不足による土壌水分不足のため0.03トン/ヘクタール下方修正された。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)によれば、2019/20年度の実生産量は、15.9百万トンの見込み。主要生産州5州の実生産量を5年平均と比べると、5州のうち4州で平均を下回っており、内訳は生産量の最も多いWA州で対前年度33.1%減(8.97→6.00百万トン)、NSW州で61.9%減(5.98→2.28百万トン)、SA州で18.3%減(4.28→3.50百万トン)、QLD州で57.7%減(0.99→0.42百万トン)である。また、同じく、主要5州全体の収穫面積と単収を同平均と比べると収穫面積は11.2%の減少にもかかわらず、単収は23.5%の減少である。

【貿易情報・その他】輸出量は、生産量予測の下方修正により、前月予測より0.6百万トン下方修正され8.4百万トンの見込み。なお、干ばつ状況悪化の影響で豪州の輸出価格は9月に再び上昇したのち、11月まではほぼ横ばいで高止まりしている(P3グラフ参照)。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

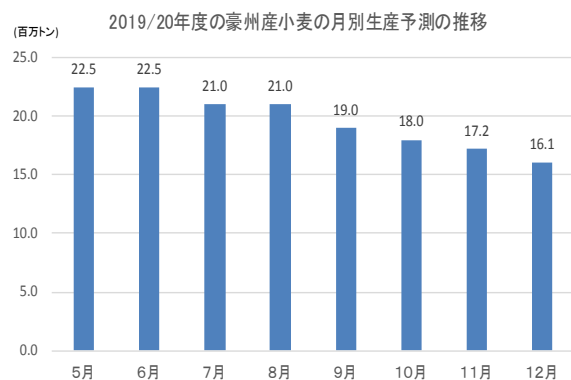
(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	20.9	17.3	16.1 (17.0)	▲ 1.1	▲ 6.9
消費量	7.5	9.2	8.7 (8.6)	0.2	▲ 5.4
うち飼料用	4.0	5.7	5.2 (5.0)	0.2	▲ 8.8
輸出量	13.9	9.0	8.4 (9.5)	▲ 0.6	▲ 6.8
輸入量	0.2	0.4	0.5 (0.5)	0.3	25.0
期末在庫量	5.5	5.0	4.4 (4.4)	▲ 0.4	▲ 11.1
期末在庫率	25.8%	27.2%	25.8% (24.5%)	▲ 1.7	▲ 1.4

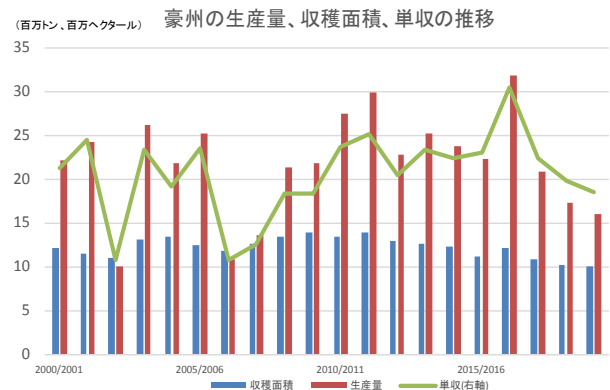
(参考)
 収穫面積(百万ha)※ 10.92 10.16 10.10 (10.40) ▲ 0.50 ▲ 0.6
 単収(t/ha) 1.92 1.70 1.59 (1.63) ▲ 0.03 ▲ 6.5
 資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 December 2019)
 IGC 「Grain Market Report」(22 November 2019)

(注)豪州の小麦生産主要5州の略称

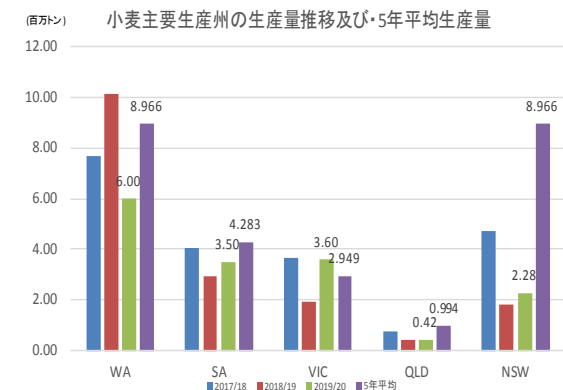
- WA州: ウェスタンオーストラリア州 SA州: サウスオーストラリア州
- NAW州: ニューサウスウェールズ州 VIC州: ビクトリア州
- QLD州: クイーンズランド州



資料:USDA「WASDE」(2019.12.10)をもとに農林水産省で作成。



資料:USDA「PS&D」(2019.12.10)をもとに農林水産省で作成。



資料:ABERAS「Crop Report」(2019.12.3)をもとに農林水産省で作成。

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・カナダで下方修正も、中国で上方修正により、前月から上方修正された。

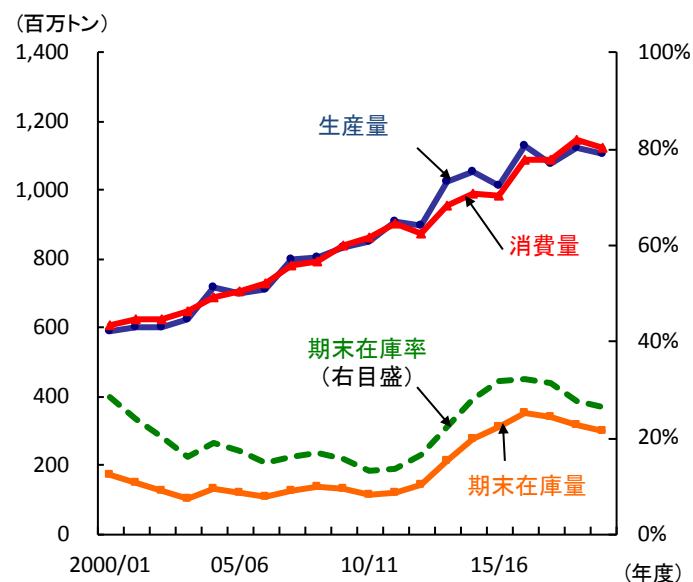
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・カナダで下方修正も、中国等で上方修正により、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・カナダ等で下方修正により、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「FPS&D」(2019.12.10)をもとに農林水産省にて作成

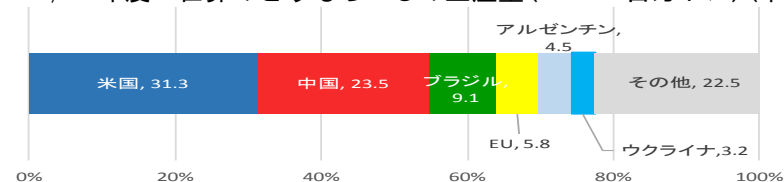
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

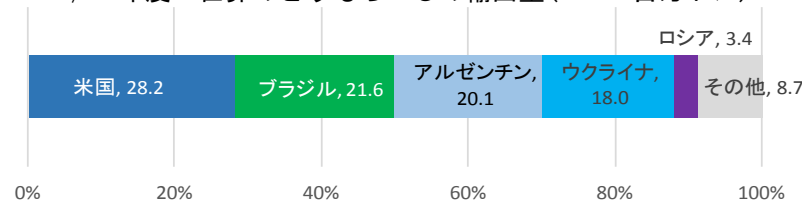
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	1,079.9	1,124.5	1,108.6	6.5	▲ 1.4
消費量	1,090.4	1,146.6	1,127.2	1.0	▲ 1.7
うち飼料用	672.3	704.9	696.3	1.4	▲ 1.2
輸出量	148.2	180.4	166.6	▲ 0.4	▲ 7.6
輸入量	149.9	162.8	167.6	0.1	2.9
期末在庫量	341.3	319.2	300.6	4.6	▲ 5.8
期末在庫率	31.3%	27.8%	26.7%	0.4	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2019)

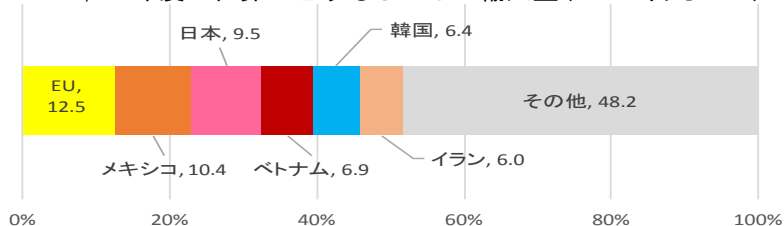
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1108.6 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (166.6 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (167.6 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】3月から6月までの降雨過多の影響により、作付け、生育に遅れが生じた。米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.12.9)によれば、12月8日時点の収穫進捗率は92%と、過去5年平均(100%)より遅れている。

生産量は、前月予測から変更なく、前年度比5.3%減の347.0百万トンの見通し。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から変更なく、前年度比2.8%減の306.5百万トン。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更なく、前年度比10.4%減の47.0百万トンの見込み。なお、輸出検証高(2019年1月3日～12月5日)は、35.6百万トン(右表参照)。

輸出価格は、12月中旬の米中通商協議の一次合意、アルゼンチンの輸出税引き上げの公表を受け上昇。

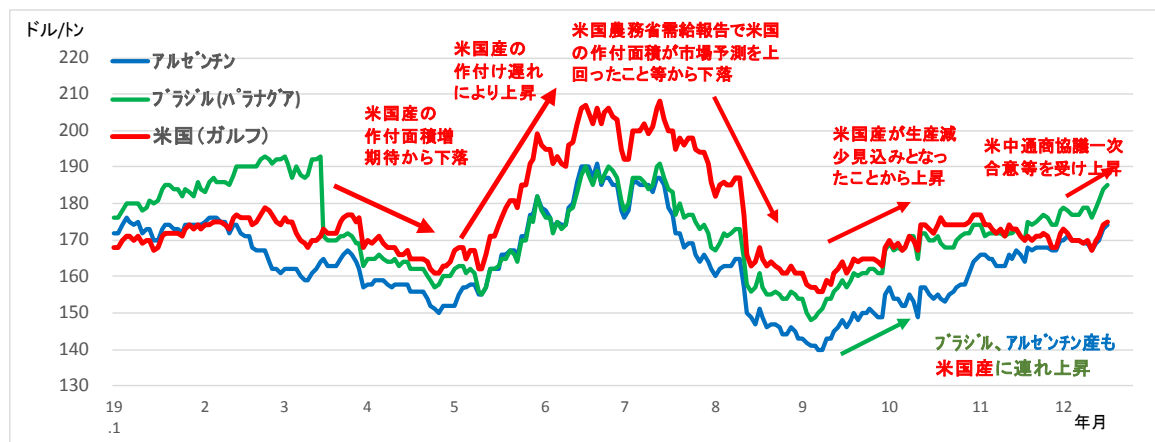
とうもろこし-米国

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	366.3	347.0	-	▲ 5.3
消費量	314.0	315.2	306.5	-	▲ 2.8
うち飼料用	134.7	142.7	134.0	-	▲ 6.1
エタノール用等	142.4	136.6	136.5	-	▲ 0.0
輸出量	61.9	52.5	47.0	-	▲ 10.4
輸入量	0.9	0.7	1.3	-	78.9
期末在庫量	54.4	53.7	48.5	-	▲ 9.6
期末在庫率	14.5%	14.6%	13.7%	-	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.48	33.08	33.11	-	0.1
単収(t/ha)	11.08	11.07	10.48	-	▲ 5.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

表: 米国のとうもろこし輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高		
		2019年累計	10月	11月
1	メキシコ	1202.4	76.7	144.4
2	日本	989.9	26.1	37.6
3	コロンビア	360.7	24.8	44.8
	その他	1002.1	45.1	50.2
	計	3,555.1	172.7	277.1

注1: 11月の輸出検証高は、11月7,14,21,28日及び12月5日の計

注2: 累積輸出検証高は、2019年1月3日～12月5日の合計

出典: USDA Federal Grain Inspection Service

< ブラジル >

【生育・生産状況】11月に続き12月も主産地で降雨に恵まれ、夏とうもろこしは、パラナ州、リオグラデ・ド・スル州等で順調に生育期を迎えている。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく101.0百万トンの見込み。

また、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2019.12.10)によれば、2019/20年度の夏とうもろこしは、作付面積の増加、単収の向上により、生産量は前年度より2.6%増の26.3百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けする冬とうもろこしの生産量は72.1百万トンが見込まれ、合計では98.4百万トンと前年度(100.0百万トン)より1.6%減少する見込み。(P.17大豆ーブラジルのクロープカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から変更なく66.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更なく36.0百万トンが見込まれ、輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。

ブラジル貿易統計によると、11月の輸出量は4.3百万トンで、2019年1～11月までの輸出量累計は、39.1百万トンとなり、前年同期の約2倍となっている。39.1百万トンの内訳は、1位が日本で5.5百万トン、2位がイランで5.1百万トン、3位がベトナムで3.6百万トンとなっている。

一方、国内のエタノール向け需要の増加に伴い、隣国パラグアイからの輸入が増加しており、1～11月の輸入量は1.3百万トンと前年同期比1.6倍。

ALIC(農畜産業振興機構)の情報によると、ブラジルインフラ省傘下の国家運輸インフラ局(DNIT)は11月29日、主要穀物生産州であるマットグrosso州のシノップと北部のパラー州にあるミリチトゥバ港をつなぐ国道163号線の舗装工事が完了したと発表した。穀物の北部経由での輸出促進に貢献するとみられる。

とうもろこしーブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

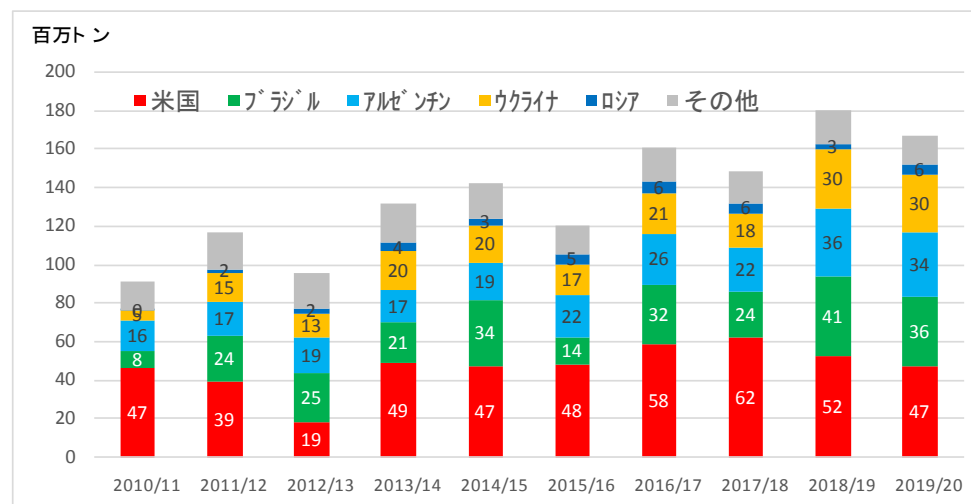
(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	82.0	101.0	101.0 (101.0)	-	-	
消費量	63.5	65.7	66.0 (67.7)	-	0.5	
うち飼料用	54.0	55.7	56.0 (53.5)	-	0.5	
輸出量	24.2	41.0	36.0 (35.5)	-	▲ 12.2	
輸入量	0.9	1.5	1.0 (0.9)	-	▲ 33.3	
期末在庫量	9.3	5.1	5.1 (4.7)	-	-	
期末在庫率	10.6%	4.8%	5.0% (4.6%)	-	0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10 (17.80)	-	3.4	
単収(t/ha)	4.94	5.77	5.58 (5.67)	-	▲ 3.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2019)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

近年、米国のシェアが低下、ブラジルがシェアを拡大



資料: USDA 「PS&D」(2019.12.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】11月から12月上旬にかけての降雨により作付けが最盛期を迎えた。ブエノスアイレス穀物取引所週報(2019.12.19)によれば、作付進捗率は62.8%となっている。作付予定面積は、前年度並の6.3百万ヘクタールの見通し。

なお、USDAによれば、現在作付け中の2019/20年度の実産量は、前月予測から変更はなく50.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比6.9%減の33.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2019年10月の輸出量は3.2百万トンで、1～9月の累計では31.4百万トンとなり、前年同期の1.5倍となった。内訳は、1位がベトナムで6.8百万トン、2位がアルジェリアで3.2百万トン、3位がエジプトで2.6百万トン。なお、フェルナンデス新政権は、財政赤字の改善のため、12月14日、昨年9月から実施していた輸出税の引上げ(約7%→12%)を公表した。更なる引き上げも検討されている。

< 中国 >

【生育・生産状況】11月に概ね収穫が終了した。中国国家统计局の2019年「全国糧食生産数」(2019.12.6)によれば、大豆への作付け転換により作付面積が41.3百万ヘクタールと前年度比2.0%減少するものの、天候に恵まれ単収が3.5%増加し史上最高の6.3トン/ヘクタールとなったことから、生産量は1.4%増の260.8百万トンの見込み。これを受け、USDAも生産量を上方修正した。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から飼料用需要の上方修正により上方修正され、生産量の上方修正により、期末在庫も上方修正された。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から2018年7月から米国産とうもろこし輸入には25%の追加関税が賦課されている。なお、2019年12月15日以降、さらに賦課される予定であった追加関税10%については、一次合意により暫定停止となった。

中国の貿易統計によれば、2019年10月の輸入量は9万トンで、うち6万トンが米国産と最大のシェアを占める。なお、1～10月の累計輸入量は4.0百万トンで、内訳は、ウクライナ産が3.5百万トン(89%)、米国産が0.3百万トン(6%)である。

とうもろこし-アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.0	51.0	50.0 (53.1)	-	▲ 2.0
消費量	12.4	13.8	15.0 (22.4)	-	8.7
うち飼料用	8.5	9.7	10.3 (17.5)	-	6.2
輸 出 量	22.5	36.0	33.5 (32.0)	-	▲ 6.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	3.6	5.1 (4.8)	-	41.8
期末在庫率	6.9%	7.2%	10.6% (8.8%)	-	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	6.10	6.10 (7.10)	-	-
単収(t/ha)	6.15	8.36	8.20 (7.47)	-	▲ 1.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2019)

とうもろこし-中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	259.1	257.3	260.8 (255.4)	6.8	1.3
消費量	263.0	273.0	278.0 (281.6)	1.0	1.8
うち飼料用	187.0	190.0	189.0 (175.0)	1.0	▲ 0.5
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	3.5	4.5	7.0 (5.0)	-	56.3
期末在庫量	222.5	211.3	201.1 (183.2)	5.8	▲ 4.9
期末在庫率	84.6%	77.4%	72.3% (65.0%)	1.8	▲ 5.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.40	42.13	41.28 (41.53)	0.28	▲ 2.0
単収(t/ha)	6.11	6.11	6.32 (6.15)	0.12	3.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・中国等で上方修正され、前月から上方修正された。

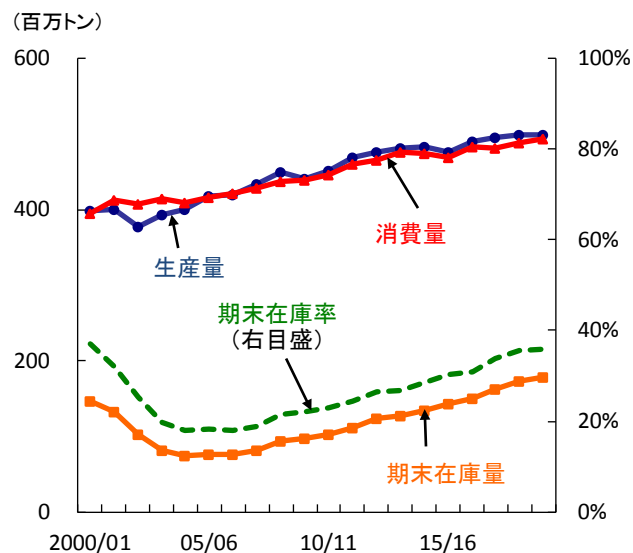
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・フィリピン等で上方修正も、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出品 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ベトナム等で上方修正も、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2019.12.10）をもとに農林水産省にて作成

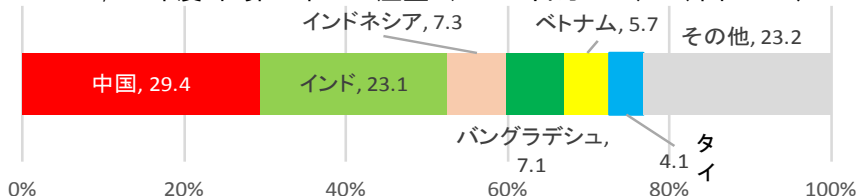
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

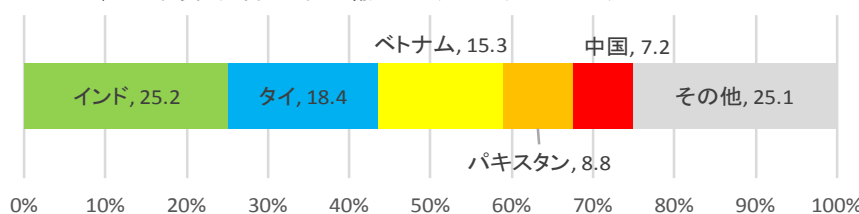
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	494.8	499.2	498.4	0.6	▲ 0.2
消費量	482.0	488.6	493.8	▲ 0.2	1.1
輸出品	47.1	44.2	45.7	▲ 0.1	3.4
輸入量	46.7	43.7	43.5	0.2	▲ 0.5
期末在庫量	162.7	173.2	177.8	0.8	2.6
期末在庫率	33.7%	35.5%	36.0%	0.2	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 December 2019）

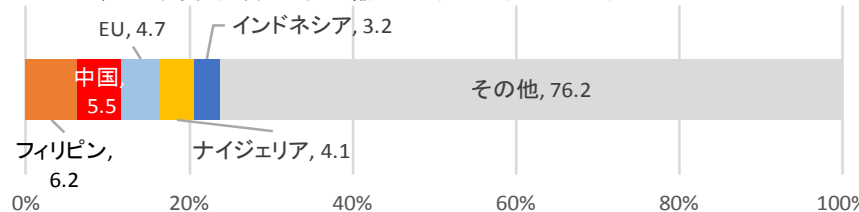
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量（498.4 百万トン）（単位：%）



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出品（45.7 百万トン）



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量（43.5 百万トン）



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】12月上旬までに、収穫は全米で終了した。

USDAによれば、生産量は、対前年度比16.2%減の6.0百万精米トンの見込みで前月予測から変わらず。このうち、中・短粒種の実産量は2.8百万もみトンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、長粒種の輸出ペースが予想以上のため前月予測から0.1百万トン上方修正され、対前年度4.4%増の3.1百万精米トンの見込み。輸入量は、対前年度2.2%増の0.9百万精米トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】現地コンサルタントによれば、12月上旬現在、インド東部ではカリフ米の収穫が続いている。南部及び南東部ではラビ米の播種が始まっている。10月以降のポストモンスーン期の降水量は例年に比べ増加しているため、12月13日時点のラビ米の作付面積は1.1百万ヘクタールと前年度(0.9百万ヘクタール)を上回っている。

USDAによれば、対前年度比1.2%減の115.0百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の実輸出量は、非バスマティ米の実輸出ペースの減速から0.5百万トン下方修正され、対前年度比6.5%増の11.5百万トンと、6年連続で世界第1位の輸出国となる見込み。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから、12月時点の政府備蓄量は21.3百万トンと10月1日時点の備蓄必要量(10.3百万トン)を大きく上回っている。

米—米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	6.0	-	▲ 16.2
消費量	4.3	4.6	4.2	-	▲ 9.2
輸出量	2.8	3.0	3.1	0.1	4.4
輸入量	0.9	0.9	0.9	-	2.2
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.1	▲ 23.9
期末在庫率	13.2%	18.8%	14.9%	▲ 1.3	▲ 3.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.00	-	▲ 15.3
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.51	-	▲ 1.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)

米—インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.8	116.4	115.0 (115.0)	-	▲ 1.2
消費量	98.7	100.2	102.0 (102.4)	-	1.8
輸出量	12.0	10.8	11.5 (11.2)	▲ 0.5	6.5
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	28.0	29.5 (29.7)	0.5	5.4
期末在庫率	20.4%	25.2%	26.0% (26.2%)	0.6	0.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.77	43.80	43.50 (43.25)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	3.86	3.99	3.97 (2.66)	-	▲ 0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
IGC 「Grain Market Report (21 November 2019)」 (単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】現地情報によれば、メコンデルタのみの2018/19年度の秋冬作は、11月中旬時点で収穫率は39%。2019/20年度の冬春作の作付けは11月中旬時点で3.4百万ヘクタール。南部を中心に、前年同期（1.8百万ヘクタール）より作付けが進んでいる。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、対前年度比1.9%増の28.3百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、競争性のある低価格と生産増から前月予測から0.3百万トン上方修正され、対前年度比2.2%増の7.0百万トンの見込み。

なお、同年1～11月の輸出量は、5.9百万トンと対前年同期比(5.6百万トン)で4.2%増となっている。前年度と比較して、中国、インドネシア向けが輸入需要の減退から約8割減となっているものの、フィリピン、コートジボワール、香港向けの輸出が2.4倍と大きく伸びている。

< タイ >

【生育・生産動向】現地情報によれば、12月上旬時点で北東部、北部の2018/19年度の雨季作では一部で登熟期から収穫期を迎えているものの、収穫が終了した圃場も多い。12月に入り、2019/20年度の乾季作の作付けが進展している。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の前年度比0.8%増の20.5百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、特にアフリカ市場において価格競争力がない状態が継続すること及びバーツ高から前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比3.7%増の8.4百万トンの見込み。

2019年1～10月の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、バーツ高等により、前年同期比28.9%減の6.5百万トンとなった。主な輸出先は、ベナン（105.9万トン）、南アフリカ（63.9万トン）、米国（46.7万トン）である。

12月18日時点のタイ産米（100%2等）の輸出価格は444ドル/トンで、依然としてベトナム産より2割程度割高であることから新たな引き合いがなく、需要が低迷している。

米ーベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.8	28.3 (28.8)	-	1.9
消費量	21.5	21.4	21.5 (22.6)	▲ 0.1	0.7
輸出量	6.6	6.9	7.0 (6.6)	0.3	2.2
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.0	1.2 (3.5)	▲ 0.3	20.0
期末在庫率	3.7%	3.5%	4.2% (11.8%)	▲ 1.1	0.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.65	7.62	7.67 (7.57)	-	0.7
単収(もみt/ha)	5.79	5.83	5.91 (3.81)	-	1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
IGC 「Grain Market Report (21 November 2019)」 (単収は精米t/ha)

米ータイ

夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.3	20.5 (19.8)	-	0.8
消費量	11.0	11.8	11.5 (11.0)	0.1	▲ 2.5
輸出量	11.1	8.1	8.4 (9.0)	▲ 0.1	3.7
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	3.7	4.6 (4.3)	-	23.0
期末在庫率	13.6%	18.6%	22.9% (21.6%)	-	4.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.83	10.90 (10.80)	-	0.6
単収(もみt/ha)	2.90	2.85	2.85 (1.83)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
IGC 「Grain Market Report (21 November 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】2019/20年度の二期作晩稲及び一期作稲の収穫は終了した。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、大豆への作付転換政策の影響で収穫面積が下方修正されたものの、単収は生育期間の良好な天候により上方修正されたことから、前月予測から0.7百万トン上方修正され、対前年度比1.2%減の146.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、対前年度比19.1%増の3.3百万トンの見込み。これは、政府備蓄在庫の古米が含まれることから特に中粒種の輸出価格が米国や豪州に比べ約半額となっていること、豪州等の生産減を背景に、価格を重視するアフリカや中東の輸入国にとって魅力的な選択肢となっているためである。この結果、米国の従来の輸出市場であったトルコやヨルダン、リビアに加え、米領プエルトリコなどへも進出している。

一方、輸入量は国内在庫の積み上がりから輸入ペースが減速しているため前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比14.3%減の2.4百万トンの見通しとなり、2009/10年度以来、10年ぶりに純輸出国となる見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（10月分）によれば、早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,960元/トン、4,280元/トン、4,020元/トン。10月は国慶節（建国記念日）の長期休暇の消費量の増加によりインディカ米、ジャポニカ米価格ともに前月に比べ上昇した。

米—中国

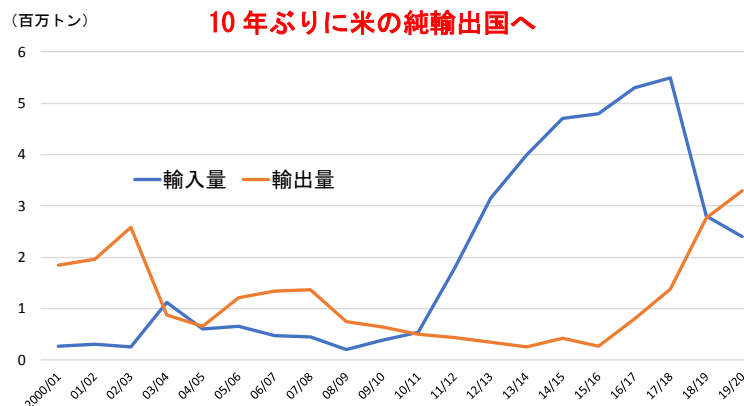
北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	148.9	148.5	146.7 (147.2)	0.7	▲ 1.2	
消費量	142.5	143.0	143.0 (143.5)	-	0.0	
輸出量	1.4	2.8	3.3 (3.6)	-	19.1	
輸入量	5.5	2.8	2.4 (3.0)	▲ 0.1	▲ 14.3	
期末在庫量	109.0	114.6	117.4 (114.1)	0.6	2.5	
期末在庫率	75.8%	78.6%	80.2% (77.6%)	0.4	1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	29.69 (29.90)	▲ 0.31	▲ 1.7	
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	7.06 (4.92)	0.11	0.4	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
IGC「Grain Market Report (21 November 2019)」(単収は精米t/ha)

図：中国の米輸出入量の推移



資料：USDA「PS&D」(2019.12.10)のデータをもとに農林水産省にて作成。

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・中国等で上方修正され、前月から上方修正された。

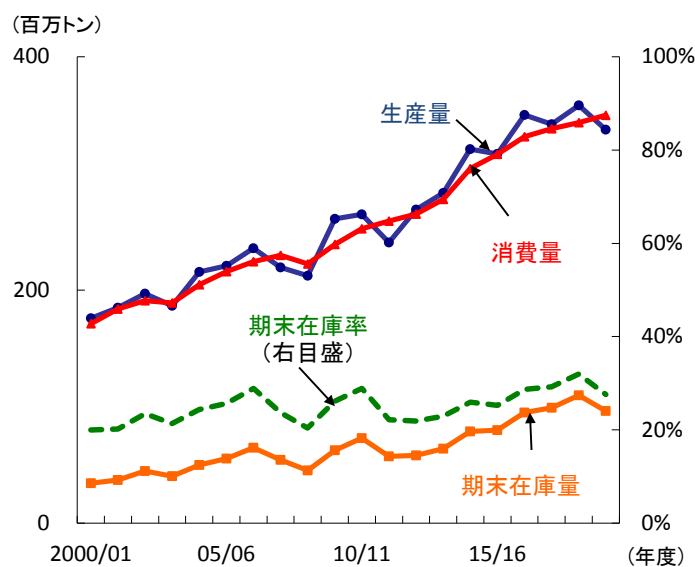
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ベトナムで下方修正も、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2019.12.10）をもとに農林水産省で作成。

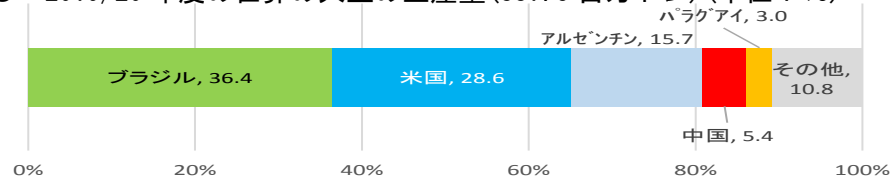
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

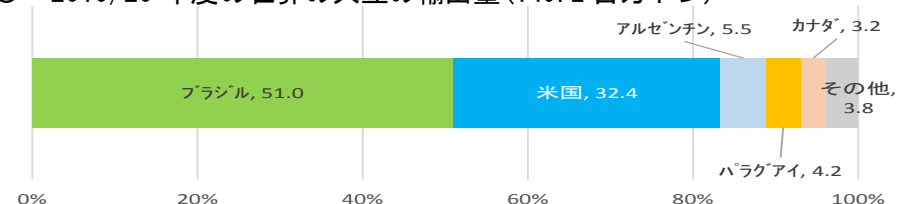
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	342.0	358.2	337.5	0.9	▲ 5.8
消費量	338.3	343.4	349.7	0.1	1.8
うち搾油用	294.9	297.7	302.8	0.1	1.7
輸 出 量	153.1	149.2	149.2	▲ 0.6	▲ 0.0
輸 入 量	153.3	145.3	147.9	▲ 0.6	1.8
期末在庫量	98.9	109.8	96.4	1.0	▲ 12.2
期末在庫率	29.2%	32.0%	27.6%	0.3	▲ 4.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 December 2019）

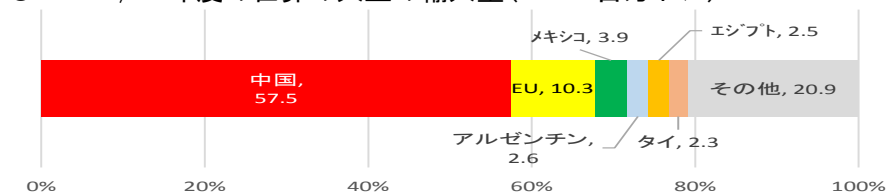
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量(337.5 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量(149.2 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量(147.9 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省 (USDA) によれば、2019/20 年度の生産量は、前月予測から変更はなく、96.6 百万トンの見込み。

中西部での降雨により作付け・生育が遅れたが、霜害の影響を受けやすい大豆の収穫を優先的に行ったとみられることから、「Crop Progress」(2019.12.2)によれば、12月1日時点の主要18州における収穫進捗率は96%と、中西部の北部を除きほぼ終了した。

【貿易情報・その他】2019/20 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく48.3 百万トンの見込み。USDA「Oil Crops Outlook」(2019.12.12)によると、11月28日までの輸出量は、輸出量全体で見ると、8%前年度を上回る程度である。前年度よりも中国向けが伸びている。中国は、国有企業の備蓄向け輸入が、特例として、米国産大豆にかかる高関税を免除されることで、増加している。さらに、報道によれば、中国政府は、12月6日に、米国産大豆等に関し、一定数量の追加関税免除を公表した。

輸出検証高 (2019年1月3日～12月5日) は、38.6 百万トンである。(下表参照)

米国の大豆輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高		
		2019年累計	10月	11月
1	中国	1543.0	149.5	494.9
2	メキシコ	412.1	51.5	38.3
3	エジプト	247.1	58.5	23.7
	その他	1660.5	275.2	217.4
	計	3,862.7	534.6	774.2

注1: 11月の輸出検証高は、11月7、14、21、28及び12月5日の合計

注2: 累積輸出検証高は、2019年1月3日～12月5日の合計

出典: USDA Federal Grain Inspection Service

大豆—米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	120.5	96.6	-	▲ 19.8
消費量	58.9	60.4	60.8	-	0.6
うち搾油用	55.9	56.9	57.3	-	0.6
輸 出 量	58.1	47.6	48.3	-	1.6
輸 入 量	0.6	0.4	0.5	-	42.1
期末在庫量	11.9	24.9	12.9	-	▲ 48.0
期末在庫率	10.2%	23.0%	11.8%	-	▲ 11.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.24	35.45	30.61	-	▲ 13.7
単収(t/ha)	3.31	3.40	3.16	-	▲ 7.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 December 2019)

写真 ノースダコタ州南西部の大豆収穫(12月16日撮影)

米国中西部の北部は、降雪により大豆収穫が遅れ、この圃場では12月中旬になっても収穫が行われている。ここは、牧草用草地であったが、2000年代後半の大豆・とうもろこし価格の高騰に伴い、圃場整備が行われた。



< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の123.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2019.12.10)によれば、2019/20年度の生産量は、前年度比5.3%増の121.1百万トンの見込み。

USDAによれば、12月8日から12月14日の間、ブラジル主産地の中部、南部にかけて、普通からやや多い量の降雨があり、生育に良好な状況であった。また、数日間、気温が30℃台半ばまで上昇し、生育が進んでいる。12月9日時点で、南部のパラナ州は、生育期、12月12日時点で、同じく南部のリオグランデ・ド・スル州では、作付進捗率が90%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、46.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月からの変更はなく、76.0百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。ブラジル貿易統計によると、2019年1月～11月の輸出量は、71.2百万トンで、中国向けが最も多く、77.9%を占めている。

USDA「Oil Crops Outlook」(2019.12.12)によれば、7月以降、米国ドルに対して、ブラジル・リアルが約8%下落したことから、ブラジル農家の旧穀の販売意欲が強くなり、11月の輸出量が増加した。新穀の販売予約についても伸びており、年明けの収穫が始まると、大豆の輸出は加速される見込みである。

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	122.0	117.0	123.0 (123.0)	-	5.1	
消費量	46.5	45.2	46.5 (…)	-	3.0	
うち搾油用	44.2	42.5	43.8 (…)	-	2.9	
輸 出 量	76.1	75.0	76.0 (…)	-	1.4	
輸 入 量	0.2	0.1	0.2 (…)	-	42.9	
期末在庫量	32.7	29.8	30.4 (…)	0.4	2.2	
期末在庫率	26.7%	24.8%	24.8% (…)	0.3	0.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	35.15	35.90	36.90 (37.00)	-	2.8	
単収(t/ha)	3.47	3.26	3.33 (3.32)	-	2.1	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(22 November 2019)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2019/20年度の大豆の作付けは、2019年9月以降、開始。

2020年2月以降に収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2019/20年度	2019年												2020年									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
夏とうもろこし																						
	リオグランデ・スル州等												収穫 26.3(百万t)									
	作付 4.2(百万ha)												→ 収穫夏冬計 98.4百万t									
冬とうもろこし																						
	マトグロソ州、パラナ州等												作付 13.4(百万ha)									
	← 作付面積夏冬計 17.5百万ha												↑ 大豆収穫後一部圃場で冬とうもろこし播種									
大豆																						
	作付 36.7(百万ha)												収穫 121.1(百万t)									

資料: CONAB 穀物レポート(2019.12.10)

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2019.12.19)によれば、2019/20年度の生産量は、対前年度比18%減の6.0百万トンの見込み。生育期に天候に恵まれず、収穫面積が減少した。さらに、特にカナダ西部で収穫時に悪天候となり、収穫ロスが発生した。

【需給状況】AAFCによれば、2019/20年度の搾油用消費量は、生産量減少と、搾油需要が一部なたねにシフトしているため、前年度(5.6百万トン)を下回る4.4百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、中国向け輸出が好調であることから、前月予測から変更はなく、4.7百万トンの見込み。

AAFCによると、今後の大豆市場の動向については、南米地域の作付け・生育状況、北米産大豆の品質や、輸出ペース等に注目すべきとしている。

(参考 カナダのなたね)

カナダ統計局によれば、収穫面積の減少により、2019/20年度のなたね生産量は、対前年度比8.3%減の18.6百万トンの見込み。これは、2015/16年度以来の低水準である。今年度は、中国による検疫措置の強化により、輸出が制約されていることから、作付面積が減少した。そのため、収穫面積は、対前年度比8.8%減の8.3百万ヘクタール。カナダ西部では、生育期に乾燥した上に、悪天候下での収穫となったにもかかわらず、単収は、対前年度比でわずかに増加している。生産の最も多いサスカチュワン州では、対前年度比7.3%減の10.1百万トン。アルバータ州では、対前年度比9.4%減の5.3百万トン、マニトバ州では、対前年度比7.9%減の3.1百万トンの見込み。

「Oil World Monthly」(2019.11.22)によると、なたね収穫期に寒冷湿潤の気候となり、一部収穫ができず、来春に収穫が持ち越される可能性があり、それによる収穫ロスが発生するおそれがある。

AAFC(2019.12.19)によれば、なたねの輸出量は、9.1百万トンの見込み。EU向け輸出はEUの生産量が減少したことから増加し、中国向け輸出は、ASFの影響から減少する見込み。

大豆－カナダ

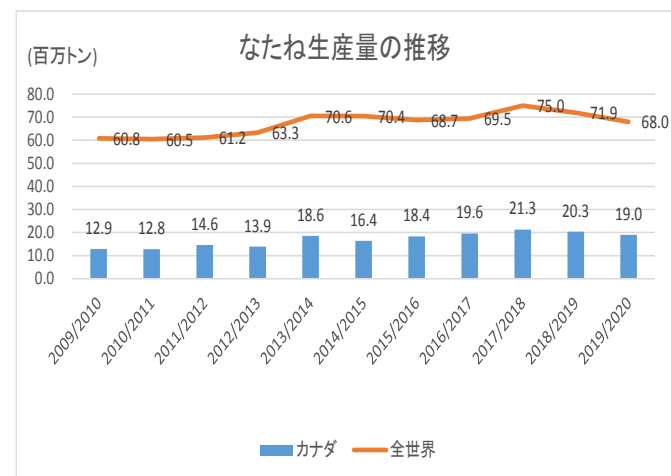
(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.0 (6.0)	-	▲ 17.4
消費量	2.9	3.0	2.7 (2.3)	-	▲ 9.5
うち搾油用	1.9	2.1	1.9 (1.8)	-	▲ 8.5
輸 出 量	4.9	5.3	4.7 (4.4)	-	▲ 10.6
輸 入 量	0.5	1.2	0.9 (0.4)	-	▲ 23.2
期末在庫量	0.6	0.8	0.4 (0.4)	-	▲ 58.4
期末在庫率	8.1%	10.2%	4.7% (5.9%)	-	▲ 5.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.54	2.30 (2.27)	-	▲ 9.4
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.61 (2.66)	-	▲ 8.7

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 December 2019)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 December 2019)



資料：USDA「PS&D」(2019.12.10)をもとに農林水産省で作成。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.0百万トンの見込み。

「ブエノスアイレス穀物取引所週報」(2019.12.19)によれば、2019/20年度の作付けに関して、作付予定面積は17.7百万ヘクタール、作付進捗率は70.2%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から搾油用消費量が0.6百万トン上方修正され、51.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は国内での搾油需要拡大のため、前月予測から0.6百万トン下方修正され8.2百万トンの見込み。

なお、アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。報道によれば、フェルナンデス新政権は、12月14日、財政赤字改善のため、穀物等に課している輸出税の引き上げを決定した。大豆・大豆粕・大豆油の輸出税は、現行の約25%から30%へ引き上げられ、財政状況等の状況により、さらなる引き上げも検討されている。

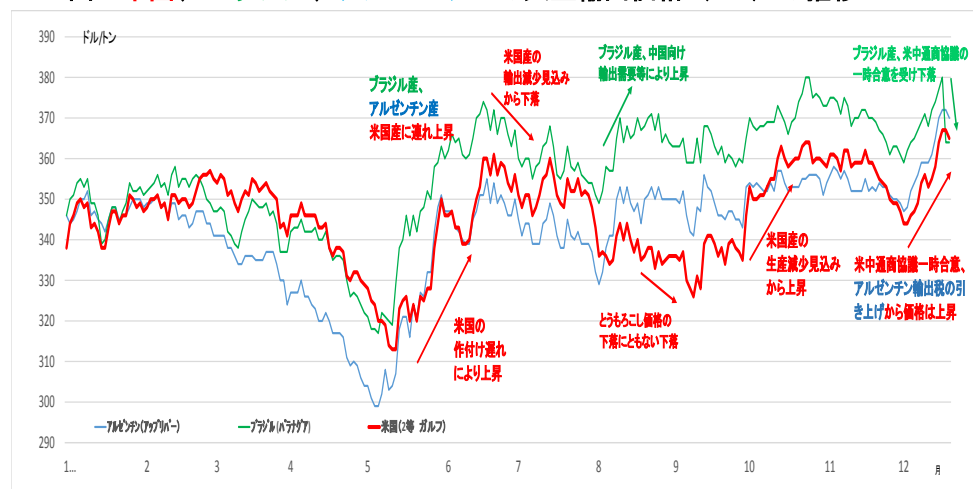
大豆—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	55.3	53.0 (53.0)	-	▲ 4.2
消費量	43.6	47.5	51.7 (…)	0.6	9.0
うち搾油用	36.9	40.6	44.6 (…)	0.6	9.9
輸 出 量	2.1	9.1	8.2 (…)	▲ 0.6	▲ 9.9
輸 入 量	4.7	6.4	3.9 (…)	-	▲ 39.2
期末在庫量	23.7	28.9	25.9 (…)	-	▲ 10.4
期末在庫率	51.9%	51.1%	43.2% (…)	-	▲ 7.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.60	17.50 (17.30)	-	5.4
単収(t/ha)	2.32	3.33	3.03 (3.06)	-	▲ 9.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(22 November 2019)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

写真 サンタフェ州の大豆 (11月24日撮影)

この圃場では11月初旬に作付けされ、大豆は順調に生育している。



< 中国 >

【生産・生育状況】中国国家统计局による「全国糧食生産数」(2019.12.6)によれば、生産量は、前年度比 13.3%増となり史上最高の 18.1 百万トンの見込み。USDA もこれを受けて、生産量を上方修正した。

USDA 「Oil Crops Outlook」(2019.12.12)によれば、2019/20 年度の収穫面積は 9.3 百万ヘクタールと対前年度比 11%増加した。これは、政府による、高い補助金により、農家の作付け意欲が増しているためである。

【需給動向】USDA によれば、生産量増加により、国内での供給が増加しても、中国国内における搾油用消費量は変わらず (84.5 百万トン)、期末在庫は、前年より 0.8 百万トン増加し、20.2 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸入量は前月予測から変更はなく 85.0 百万トンの見込み。報道によれば、12月6日、中国政府は、米国産大豆等に関し、一定数量の追加関税の免除を公表した。

中国の貿易統計によれば、2019年10月の輸入量は 6.2 百万トンと、前年同月と比べ 0.7 百万トン減少した。なお、1~10月の累計輸入量は、70.8 百万トンであり、内訳は、ブラジル産 49.0 百万トン (69%)、米国産 11.4 百万トン (16%) である。

大豆—中国

(単位:百万トン)

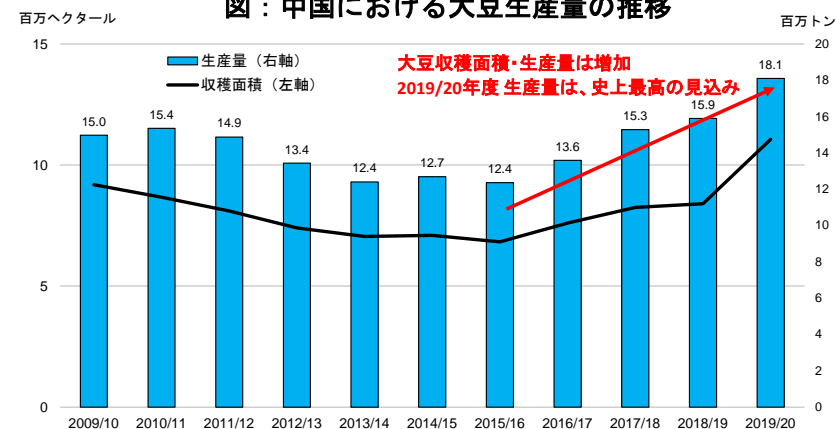
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.3	15.9	18.1 (15.6)	1.0	13.8
消費量	106.3	102.0	102.2 (…)	-	0.2
うち搾油用	90.0	85.0	84.5 (…)	-	▲ 0.6
輸 出 量	0.13	0.12	0.13 (…)	-	8.3
輸 入 量	94.1	82.5	85.0 (…)	-	3.0
期末在庫量	23.1	19.4	20.2 (…)	1.0	4.0
期末在庫率	21.7%	19.0%	19.7% (…)	1.0	0.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	8.25	8.40	9.30 (8.24)	0.30	10.7
単収(t/ha)	1.85	1.89	1.95 (1.89)	0.05	3.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 December 2019)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(22 November 2019)

図：中国における大豆生産量の推移



資料: USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2019.12.10)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年12月下旬までに 発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p>連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)</p>
